

2021（令和3年）年度ペットフード産業実態調査の結果について

一般社団法人 ペットフード協会

ペットフードメーカーなど、86社（正会員51社、賛助会員35社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉 博充】は、2021（令和3）年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）ペットフード産業実態調査を行い、その結果が以下の通りまとめられました。詳細に関しては別紙資料をご参照願います。

調査の結果、ペットフード産業の出荷総額は351,799百万円で、対前年度比は104.2%と、6年連続での増加となりました。

出荷量は、591,667トンで、対前年度比100.6%とほぼ前年並みになりました。

主要点は以下の通りです。

1. 出荷金額：用途別

犬用の出荷額は対前年度比99.1%と減少したが、猫用の出荷額は対前年度比108.4%と増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用も出荷額は、対前年度比104.1%と増加しました。

2. 出荷金額：製品タイプ別

犬用は全体の50.5%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比96.7%と減少しました。

全体の16.6%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比104%と増加しました。

猫用は全体の46.5%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比101.7%と増加しました。

全体の47.7%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比110.3%と増加しました。

3. 出荷数量：国内生産品と輸入品別

国内生産品の出荷量は対前年度比100.6%と増加しました。輸入品の出荷量も対前年度比100.6%と増加しました。

4. 出荷数量：用途別

犬用の出荷量は対前年度比98.8%と昨年に続き減少しました。猫用の出荷量は104.3%と昨年に続き増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用の出荷量は対前年度比 74.9%と減少しました。

5. 出荷数量：製品タイプ別

犬用は全体の 67.0%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 95.5%と昨年に続き減少しました。全体の 12.6%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 95.9%と減少しました。

猫用は全体の 61.4%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 100.3%とほぼ前年と同じでした。全体の 37.1%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 110.4%と増加しました。

6. 出荷数量：国内生産品

国内生産犬用の出荷量は対前年度比 99.0%と昨年に続き減少でした。

国内生産猫用の出荷量は対前年度比 106.0%と昨年に続き増加となりました。

国内生産のペットフード合計は対前年度比 70.7%と減少しました。

7. 出荷数量：輸入品

輸入品犬用の出荷量は対前年度比 98.6%と昨年に続き減少しました。

一方、輸入品猫用の出荷量は対前年度比 102.2%と増加しました。

輸入品のペットフード合計は対前年度比 112.8%と増加しました。

8. 国別輸入数量

今年度、国別輸入量において最大の輸入国はタイ、アメリカ、フランスの順でした。

輸入国増減率では、アメリカ、オーストラリア、中国、韓国、オーストリア、台湾、インドネシアの輸入量が増加しました。

一方、フランス、タイ、オランダ、チェコ、カナダ、ニュージーランドの輸入量は減少しました。

以上